

デーヴォ ガイド



2021.3.1-7

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょ。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

19:1 イエスはこの話を終えると、ガリラヤを去って、ヨルダンの向こうにあるユダヤ地方に行かれた。

19:2 すると、大ぜいの群衆がついて来たので、そこで彼らをおいやしになった。

19:3 パリサイ人たちがみもとにやって来て、イエスを試みて、こう言った。「何か理由があれば、妻を離別することは律法にかなっているでしょうか。」

19:4 イエスは答えて言われた。「創造者は、初めから人を男と女に造って、

19:5 『それゆえ、人はその父と母を離れて、その妻と結ばれ、ふたりの者が一心同体になるのだ。』と言われたのです。それを、あなたがたは読んだことがないのですか。

19:6 それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」

19:7 彼らはイエスに言った。「では、モーセはなぜ、離婚状を渡して妻を離別せよ、と命じたのですか。」

19:8 イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心がたくななので、その妻を離別することをあなたがたに許したのです。しかし、初めからそうだったではありません。

19:9 まことに、あなたがたに告げます。だれでも、不貞のためでなくて、その妻を離別し、別の女を妻にする者は姦淫を犯すのです。」

19:10 弟子たちはイエスに言った。「もし妻に対する夫の立場がそんなものなら、結婚しないほうがましです。」

19:11 しかし、イエスは言われた。「そのこ

とばは、だれでも受け入れることができるわけではありません。ただ、それが許されている者だけができますのです。

19:12 というのは、母の胎内から、そのように生まれついた独身者がいます。また、人から独身者にさせられた者もいます。また、天の御国のために、自分から独身者になった者もいるからです。それができる者はそれを受け入れなさい。」

律法の限界が明らかにされています。モーセは離婚するときにはせめて離婚状を渡して誠実な行動を取るようにとの意味で言ったのですが、律法を都合よく解釈して、離婚状さえ渡せば自由に離婚できると取られてしまったのです。当時の男尊女卑の習慣に都合よく合わせられてしまいました。

大切なのは形に合わせるのではなく、主の御心です。規則や伝統なども悪くはありませんが、形だけ守っていれば良いということになってしまふと、勝手な都合で解釈されてしまいます。または命がなくなってしまいます。可能性も生まれません。

聖書でも、聖霊によって開かれなければ、ただの研究対象になってしまいます。主のお心を聞きましよう。聖霊によって、聖書を読みましよう。生きた主の、今のみわざと御声に耳を傾けましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 2日 火曜

マタイ

19:13 そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちが連れて来られた。ところが、弟子たちは彼らをしかった。

19:14 しかし、イエスは言われた。「子どもたちを許してやりなさい。邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです。」

19:15 そして、手を彼らの上に置いてから、そこを去って行かれた。

19:16 すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」

19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちにはいりたいと思うなら、戒めを守りなさい。」

19:18 彼は「どの戒めですか。」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。」

19:19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」

19:20 この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」

19:21 イエスは、彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

19:22 ところが、青年はこのことばを聞くと、



悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。

子どものように素直で、また神様に頼りきる者となりましょう。「天の御国」すなわち神様の支配されるところは、そのような神様に対して素直な者の歩みにあります。そこでは主はみわざを成してくださいませ。

青年のように「多くの財産を持って」いることが悪いではありません。財産を自分のものとして、主のために使おうとしないところが問題になっていきます。それでも主は非難してはいません。ただ、自分のために生きる者が、自分は主の弟子だということは叶わないのです。

また、律法を行ってれば後は自分を喜ばせる生き方ができると考えるのも違ってきます。すべては主から与えられたものですから、それは預かっているに過ぎないのです。主のために生かしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 水曜

マタイ

19:23 それから、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国にはいるのはむずかしいことです。

19:24 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」

19:25 弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。」

19:26 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」

19:27 そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるのでしょうか。」

19:28 そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

19:29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。

19:30 ただ、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです。

「針の穴」とは城壁にある出入り口のことで、とても狭いものでした。イエス様は物理的なことを言ったのではなく、難しさを印象的に顕したのです。「金持ちが神の国に入るのが難しい」のは、自分の



財産に頼り、それゆえ財産を第一にしてしまい、財産が神になってしまう傾向があるからです。財産に限らず、自分の頼りとするものや誇るものには気を付けなければならないでしょう。

それでも、主は「神にはどんなこともできる」と言ってくれます。主に頼って信仰を得た私たちですから、主に頼って伝道しましょう。

ペテロはこの世の報いを求めましたが、イエス様は「世が改まって」変わる、その終わりの日について語っておられます。それが分からないと「あとの者」となるでしょう。私たちは終わりの日、すなわち永遠の救いを視野に入れて、物事を考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 木曜

マタイ

20:1 天の御国は、自分のぶどう園で働く労務者を雇いに朝早く出かけた主人のようなものです。

20:2 彼は、労務者たちと一日一デナリの約束ができる、彼らをぶどう園にやった。

20:3 それから、九時ごろに出かけてみると、別の人たちが市場に立っており、何もしていないでいた。

20:4 そこで、彼はその人たちに言った。『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。相当のものを上げるから。』

20:5 彼らは出て行った。それからまた、十二時ごろと三時ごろに出かけて行って、同じようにした。

20:6 また、五時ごろ出かけてみると、別の人たちが立っていたので、彼らに言った。『なぜ、一日中仕事もしないでここにいるのですか。』

20:7 彼らは言った。『だれも雇ってくれないからです。』彼は言った。『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。』

20:8 こうして、夕方になったので、ぶどう園の主人は、監督に言った。『労務者たちを呼んで、最後に来た者たちから順に、最初に来た者たちにまで、賃金を払ってやりなさい。』

20:9 そこで、五時ごろに雇われた者たちが来て、それぞれ一デナリずつもらった。

20:10 最初の者たちがもらいに来て、もっと多くもらえるだろうと思ったが、彼らもやはりひとり一デナリずつであった。

20:11 そこで、彼らはそれを受け取ると、主人に文句をつけて、



20:12 言った。『この最後の連中は一時間しか働かなかったのに、あなたは私たちと同じにしました。私たちは一日中、労苦と焼けるような暑さを辛抱したのです。』

20:13 しかし、彼はそのひとりに答えて言った。『私はあなたに何も不当なことはしていない。あなたは私と一デナリの約束をしたではありませんか。』

20:14 自分の分を取って帰りなさい。ただ私としては、この最後の人にも、あなたと同じだけ上げたいのです。

20:15 自分のものを自分の思うようにしてはいけないという法がありますか。それとも、私が気前がいいので、あなたの目にはねたましく思われるのですか。』

20:16 このように、あとの者が先になり、先の者があとになるものです。』

救いがどんなものが書かれています。それは一方的な神様からの恵みです。それゆえ、自分はよく働いたのに他の人と一緒かと、不平を言う可能性があるということです。私たちはどうでしょう。他の人と一緒の評価や扱いでは不満でしょうか。

よく奉仕をする人やささげる人はすばらしい振興の持ち主です。しかしこの点で「あとの者」とならないように気をつけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 金曜

マタイ

20:17 さて、イエスは、エルサレムに上ろうとしておられたが、十二弟子だけ呼んで、道々彼らに話された。

20:18 「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。

20:19 そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」

20:20 そのとき、ゼベダイの子たちの母が、子どもたちといっしょにイエスのもとに来て、ひれ伏して、お願いがありますと言った。

20:21 イエスが彼女に、「どんな願いですか。」と言われると、彼女は言った。「私のこのふたりの息子が、あなたの御国で、ひとりはおなたの右に、ひとりは左にすわれるようにおことばを下さい。」

20:22 けれども、イエスは答えて言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。」彼らは「できます。」と言った。

20:23 イエスは言われた。「あなたがたはわたしの杯を飲みはします。しかし、わたしの右と左にすわることは、このわたしの許すことではなく、わたしの父によってそれに備えられた人々があるのです。」

20:24 このことを聞いたほかの十人は、このふたりの兄弟のごとで腹を立てた。

20:25 そこで、イエスは彼ら呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとおおり、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人



たちは彼らの上に権力をふるいます。

20:26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。

20:27 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。

20:28 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」

20:29 彼らがエリコを出て行くと、大ぜいの群衆がイエスについて行った。

20:30 すると、道ばたにすわっていたふたりの盲人が、イエスが通られると聞いて、叫んで言った。「主よ。私たちをあわれんでください。ダビデの子よ。」

20:31 そこで、群衆は彼らを黙らせようとして、たしなめたが、彼らはますます、「主よ。私たちをあわれんでください。ダビデの子よ。」と叫び立てた。

20:32 すると、イエスは立ち止まって、彼ら呼んで言われた。「わたしに何をしてほしいのか。」

20:33 彼らはイエスに言った。「主よ。この目をあけていただきたいのです。」

20:34 イエスはかわいそうに思って、彼らの目にさわられた。すると、すぐさま彼らは見えるようになり、イエスについて行った。

イエス様は受難のことを話されたのに、この母はこの世の栄誉を、息子たちに求めました。クリスチャンの母は、子どものために何を求めるべきか、大いに学ぶべきところです。少しでも人々の

上になるような地位を求めるでしょうか。それとも「みなに仕える」人生となるように求めるでしょうか。

また私たち自身も同じです。イエス様から、すなわち全能の神様からの恵みと守りをいただきたいなら、イエス様のように「仕える」人生を歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 6日 土曜

マタイ

21:1 それから、彼らはエルサレムに近づき、オリブ山のふもとのベテパゲまで来た。そのとき、イエスは、弟子をふたり使いに出して、

21:2 言われた。「向こうの村へ行きなさい。そうするとすぐに、ろばがつながれていて、いっしょにろばの子がいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。

21:3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです。』と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。」

21:4 これは、預言者を通して言われた事が成就するために起こったのである。

21:5 「シオンの娘に伝えなさい。『見よ。あなたの王が、あなたのところにお見えになる。柔和で、ろばの背に乗って、それも、荷物を運ぶろばの子に乗って。』」

21:6 そこで、弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにした。

21:7 そして、ろばと、ろばの子とを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。

21:8 すると、群衆のうち大ぜいの者が、自分たちの上着を道に敷き、また、ほかの人々は、木の枝を切って来て、道に敷いた。

21:9 そして、群衆は、イエスの前を行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。

「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。」

21:10 こうして、イエスがエルサレムにはいられると、都中がこぞって騒ぎ立ち、「この



方は、どういう方なのか。」と言った。

21:11 群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレの、預言者イエスだ。」と言った。

イエス様は王であられました。それも全宇宙、全存在、全時間の王であり、これらを超越した天においても王であり、つまり絶対的な支配者であります。その王であられるイエス様が、地上における神の都であるエルサレムに入られるのです。さぞや栄光に輝いて堂々としているかと思えば、そうではなく、牧歌的なろばに乗って入られたのです。

戦いのための強い馬ではなく、作業用の弱いろばを選らんだのは、主イエスが平和の王であったからです。また謙遜な王であったからです。私たちはこのような謙遜な神様によって救われました。またこのような平和の王によって守られています。

当然、私たちが平和と謙遜な生き方を求めましょう。それこそが神様の支配にあっては、本当の権威であり権力であることを知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21:12 それから、イエスは宮にはいって、宮の中で売り買いする者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。

21:13 そして彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる。』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている。』

21:14 また、宮の中で、盲人や足なえがみもとに来たので、イエスは彼らをいやされた。

21:15 ところが、祭司長、律法学者たちは、イエスのなさった驚くべきいろいろなことを見、また宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ。」と言って叫んでいるのを見て腹を立てた。

21:16 そしてイエスに言った。「あなたは、子どもたちが何と言っているか、お聞きですか。』イエスは言われた。「聞いています。『あなたは幼子と乳飲み子たちの口に賛美を用意された。』とあるのを、あなたがたは読まなかったのですか。』

21:17 イエスは彼らをあとに残し、都を出てベタニヤに行き、そこに泊まれた。

21:18 翌朝、イエスは都に帰る途中、空腹を覚えられた。

21:19 道ばたにいちじくの木が見えたので、近づいて行かれたが、葉のほかは何もないのに気づかれた。それで、イエスはその木に「おまえの実は、もういつまでも、ならないように。」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。

21:20 弟子たちは、これを見て、驚いて言った。「どうして、こうすぐにいちじくの木が

枯れたのでしょうか。』

21:21 イエスは答えて言われた。「まことに、あなたがたに告げます。もし、あなたがたが、信仰を持ち、疑うことがなければ、いちじくの木になされたようなことができるだけでなく、たとい、この山に向かって、『動いて、海にはいれ。』と言っても、そのとおりになります。

21:22 あなたがたが信じて祈り求めるものなら、何でも与えられます。』

イエス様は宮が不当な商売に使われているのをご覧になり、その悪を明らかになさいました。律法のゆえに成り立つ商売ですが、指導者たちは信仰よりも儲けを優先させて認めていたのです。ここにも律法と人間社会の関係が洗い出され、その限界が示されています。

指導者たちはイエス様が「ダビデの子」と言われるのを嫌いました。それは救い主の称号でもあったからです。神様はこの世の人間的な指導者よりも、子どもの純粋な信仰によって認知されることが多いということです。自分がいかに成功者であるか、経験者であるか、権威者であるかを喜ぶよりも、純粋であるかどうか心を決しましょう。それはより難しいことでもあります。

いちじくにかけたイエス様のことは、イスラエルのを思っていることと考えられます。マタイはこの出来事を、神様のご計画の不思議さと確かさを表すのに用いたようです。

弟子たちの質問に対して、イエス様は別のテーマで答えられました。すなわち祈りと信仰です。今後の弟子たちの働きを思って、イエス様は信仰の祈りの力強さについて教えられました。それはそのまま私たちにも適用できることです。

山に対して動けと祈った人がいましたが、主はその祈りに答えてくださいました。造成工事で山が崩されたのです。主のみわざは人の予想を超えたものですから、結果は主にゆだねつつ祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

